

Day

1

タイトル

4. モロッコの知見と経験の共有
(3)モロッコにおける持続可能な開発と地域化戦略

発表者

持続開発庁調査計画部 部長 Rajae Chafil

本発表は、2011年憲法のビジョンと基本的理念に沿って策定された「モロッコにおける持続可能な開発と地域化戦略(「SNDD」)」の概要について紹介するものであった。SNDDの策定は、2017年6月に始まり、2018年6月に施行された。

この戦略は、4つの主要原則(1. 既存の国際的コミットメントと一致すること、2. 既存の法律と一致すること、3. 共通の目標を達成するために異なるステークホルダーを関与させる継続的プロセスであること、4. 運用可能であること)に基づいている。これらの主要原則に基づいて、SNDDは、7つの優先事項、31の戦略目標、137の目標、およびそれらの目標を実施する622のアクションで構成されている。戦略の具体的な行動と運営を確保するために、622のアクションの詳細が21冊の小冊子に詳述されている。

要約

発表者は、「優先課題1. 持続可能な発展のガバナンスの統合」の実施について、特に詳細な説明をした。政府機関がまず「ロールモデル」を提示し、社会全体の一例となるように努力がなされたこと、例えば、戦略の実施を支えるために、高官を議長とする戦略委員会が設立され、また政府機関は、政府の建物の環境監査(水管理、廃棄物管理など)の実施など、制度レベルでの行動計画を策定していること、地方政府は持続可能な開発を地域開発計画に導入することも検討していることなどである。

参加者からは、SDGsを追求する際のステークホルダーの一貫性に関する疑問が提起された。発表者は、これに対し、適切なガバナンスの枠組みを設定することが重要であると指摘し、戦略を開発するだけでは不十分で、戦略を実行するためには、機能する調整システムを含むガバナンス構造を確立する必要があると強調した。また同時に、このような調整システムにハイレベルの政府関係者が関与することの重要性を指摘した。さらに、実施の進捗状況を明らかにするだけでなく、克服すべき課題を特定するための厳格な監視・評価システムの必要性についても言及した。